

交通安全だより第5号

I. 5月の安全運転管理について

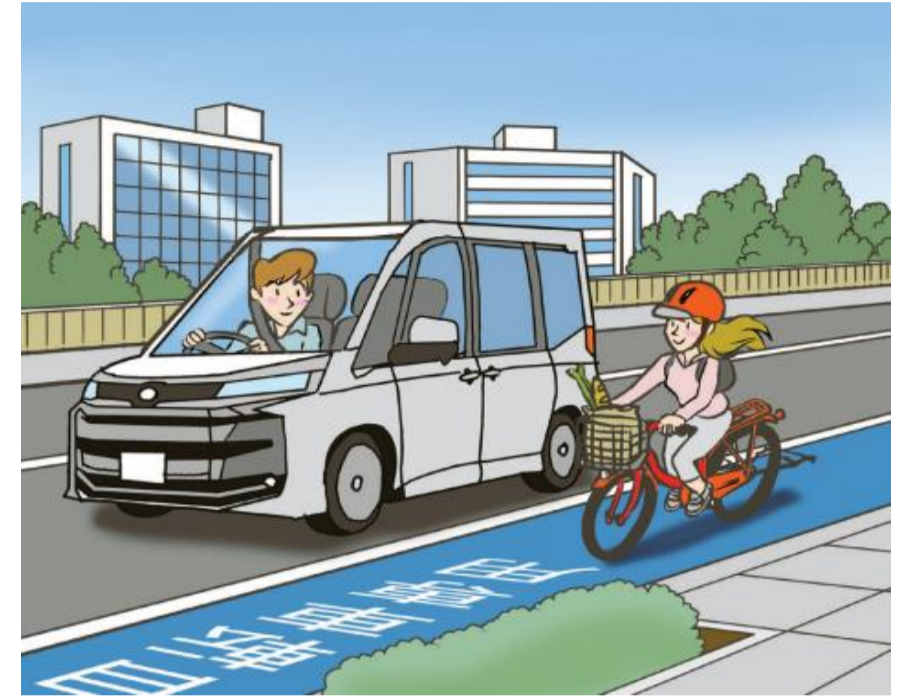
1. 自転車に関連する事故を防ぐ

～自転車の動向に注意し、危険行動を予測する～

自転車は運転免許が不要で便利な乗り物です。その反面、自転車利用者は、

- ・ 指定場所で一時停止しない
- ・ ながらスマホや傘さし運転（片手運転）
- ・ 安全確認なしの道路横断
- ・ 急な進路変更
- ・ 信号の変わり目での交差点進入

と言った危険な行動を取りがちです。



車を運転する時は、自転車側が一時停止を怠ったり赤信号で交差点に進入したりといった、交通ルールを守らない運転をすることを頭に入れておきましょう。死角からの自転車の飛び出しを予測することはもちろん、自転車の姿を見つけたら、その動向に注意して下さい。また、右左折時に自車の後方から来る自転車に気付かず巻き込み事故を起こす可能性があります。右左折時は必ずミラーと目視での安全確認を徹底するようにしましょう。

～正しい自転車運転を徹底する～

自転車利用者のルール違反による事故が多発しています。令和4年の自転車乗用中の交通事故による死者数は336人（第1・第2当事者）で、そのうちの約8割に当たる262人について自転車側に違反が見られました。最も多い違反は、安全運転義務違反（安全不確認、ハンドル操作不適など）で、全体の約半数を占めています。自転車に乗る際は、車の運転同様に交通ルールやマナーを守り、ヘルメットを着用するなど安全意識を高めていきましょう。

II. 「安全運転5則」で事故を防ごう

「安全運転5則」は、無謀な運転による死亡事故を減らすことを目的に定められました。安全運転の基本中の基本を確認しておきましょう。

①安全速度を必ず守る

安全速度とは道路や交通状況、天候などに合わせて安全に運転できる速度を言います。生活道路や雨天時などは制限速度よりもスピードを落として慎重に走行しましょう。



②カーブの手前でスピードを落とす

カーブでは遠心力が働くため、スピードを出し過ぎていると、対向車線にはみ出したり、カーブを曲がり切れない危険があります。カーブ手前で十分減速しておきましょう。



③交差点では必ず安全を確かめる

交差点は事故の多発地帯です。交差点を通過するときは、安全確認を徹底しましょう。特に右左折時には、対向直進車や歩行者等の有無を確認しましょう。



④一時停止で横断歩行者の安全を守る

横断歩道を歩いている人や渡ろうとしている人がいる場合は、必ず横断歩道の手前で一時停止して道を譲らなければなりません。思いやり運転を徹底しましょう。



⑤飲酒運転は絶対にしない

飲酒運転は悪質かつ危険な行為です。「飲んだら乗らない」を徹底しましょう。また、ドライバーに飲酒を勧めたり、飲酒運転の車に同乗したりしても罰せられます。



🚫 ながら運転は厳禁

スマホ等の画面を注視しながら運転をしていたために、歩行者を見落として衝突するケースが後を絶ちません。ながらスマホは画面に意識が集中してしまい危険の見落としや発見の遅れに繋がります。運転中は運転に集中しましょう。

Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年5月某日 15時45分頃 天候：曇り

◆事故の当事者

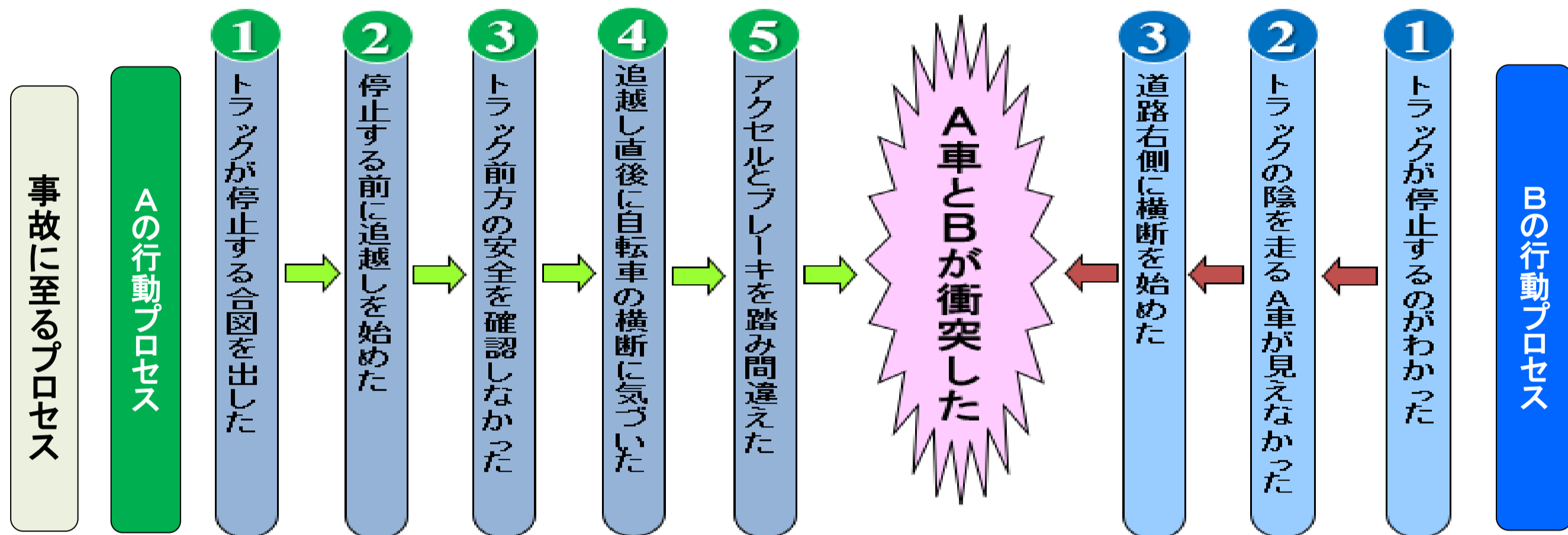
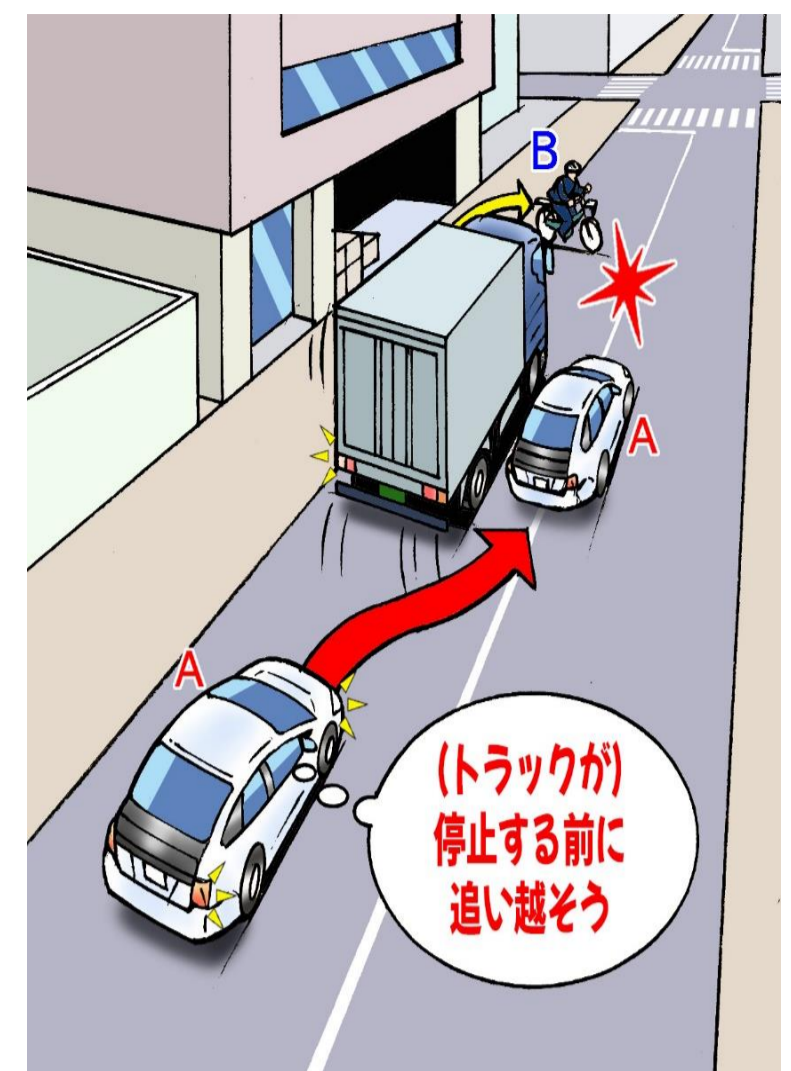
A / 男性37歳 運転歴15年 B / 男性17歳 自転車運転中

◆事故の発生概要

Aさんは、医薬品の商社に勤務する会社員です。毎日、営業活動のため、乗用車で県内の得意先を回っています。事故の当日、片側1車線の比較的空いている道路を走行していたところ、普通トラックに追いつきました。前を走るトラックは、ほぼ制限速度で走行していたのですが、前方が見通せないこともあり、Aさんは少しずつイライラしてきました。

しばらくトラックに追従していたところ、トラックは左のウィンカーを点滅させ、スピードを落として道路左に寄り、停止するようでした。それを見たAさんは、トラックが停止する前に追い越そうと考え、アクセルを踏み込みトラックの前方に出ようとしたとき、道路を横断してきた自転車に気づいたのです。Aさんはブレーキをかけようとしたのですが、慌ててしまいアクセルとブレーキを踏み間違えて、自転車に衝突しました。

Bさんは自転車通学の途中でした。いつもなら少し先の交差点を横断するのですが、トラックが停止しようとするのを見て走行車はないと思い、横断を始めてA車と衝突したのです。



類似事故を起こさないために運転者の対策は

● 追い越しはできるだけ行わない

追い越しは危険な行為であることを理解して、やむを得ない場合以外は、追い越しは行わない。この場面では、トラックの停止後に側方を通過すべきであり、そのときも、トラックの前方に出る前に、安全を確認する。

● 危険を予測し、余裕を持った運転を心がける

突然の事態に遭遇してパニックに陥ると、アクセルとブレーキを踏み間違えるおそれがある。常に危険を予測し、余裕を持った運転を心がける。

ワンポイントアドバイス ペダルを踏み間違わないために

- アクセルとブレーキの踏み間違いは、
- ① 駐車時など、ペダルの踏替えを多く行うとき
 - ② 突然の事態にパニックに陥ったとき
 - ③ 乗り慣れない車を運転したとき
 - ④ 不適切な運転姿勢や履物で運転したとき
- などに発生することが多い。

こうした状況や事態にならないよう心がけ、とくに運転行動を変える時には、アクセルとブレーキの位置を確認し、焦らず慎重に操作する。



アクセルとブレーキの位置を確認するクセをつけよう

Ⅳ. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	通勤中	どこで	一般道路
何をしている時に	L字の角を曲がったところで、後ろから来た自動車のスリップしている音が聞こえた		
どうなった	道幅が狭いため、勢いが付いたまま自車に被さるように迫って来てヒヤリとした		